
報告事項

フラワータウン再生について～これまでの取り組み報告～

三田市 都市整備部 都市デザイン課

令和8年7月

報告事項 フラワータウン再生について～これまでの取り組み報告～

○ フラワータウン再生に関するこれまでの経過



○ 令和5年度の取り組み



フラワータウン再生アクションプラン VOL.02 策定

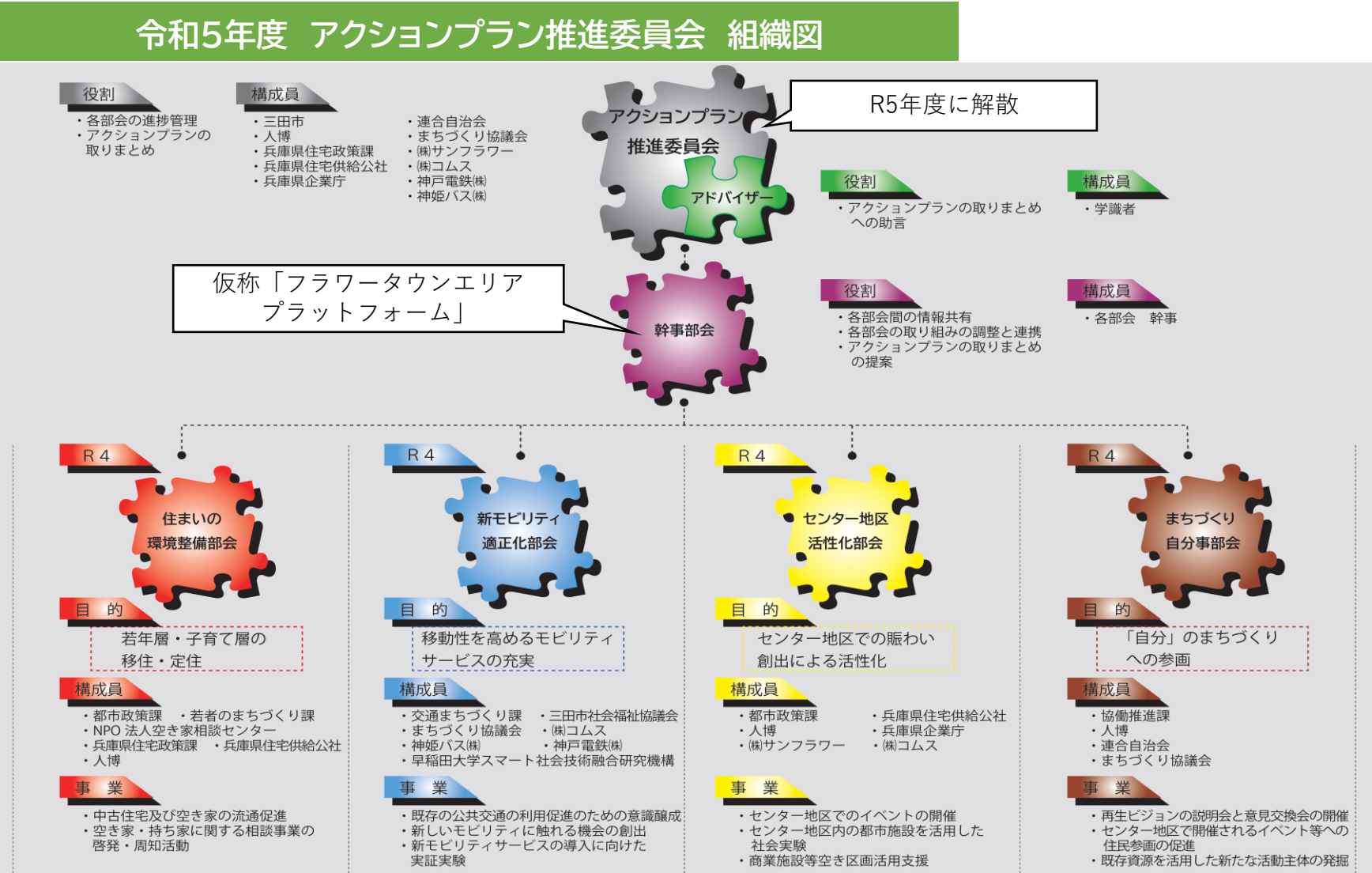
✓ 令和4年度及び令和5年度における再生ビジョンに沿ったまちづくりに関する取り組みの効果、まちへの影響等を検証・分析し、再生ビジョンの計画期間の中間年にあたる令和8年度までの具体的な行動計画を取りまとめる。

フラワータウン 再生アクションプラン推進委員会	第1回：令和5年 8月 9日（水） 第2回：令和6年 1月17日（水） 第3回：令和6年 3月25日（月）
----------------------------	---

区 分	所 属	氏 名
学識 経験者 （3名）	兵庫県立大 自然・環境科学研究所 環境計画研究所 教授	赤澤 宏樹
	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 研究部長	角野 幸博
	関西学院大学 建築学部 教授	水野 優子
	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授	笹倉 延理
住民代表 （5名）	フラワータウン連合自治会 役員	山下 典雄
	武庫小校区まちづくり連絡協議会 会長	岡田 祐作
	狭間が丘地域事業推進協議会 会長	福井 裕
	弥生まちづくり協議会 相談役	出合 哲雄
企 業 （4名）	富士小校区まちづくり推進協議会 会長	宮井 勇人
	神戸電鉄㈱ 鉄道事業本部 運輸部長	前田 和宏
	㈱サンフラワー 参事	西村 敦
	神姫バス㈱三田営業所 所長	杉崎 直哉
関係機関 （4名）	㈱北摂コミュニティ開発センター 地域連携推進部長	高田 知紀
	兵庫県立大 自然・環境科学研究所 環境計画研究所 准教授	福本 優
	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境 マネジメント研究グループ主任研究員	青江 麻宜
	兵庫県立人と自然の博物館 研究員	金澤 正太郎
行 政 （3名）	兵庫県企業庁 企業誘致課 分譲企画班 班長	一橋 知樹
	兵庫県住宅供給公社 住宅管理部 営業推進担当 営業企画課 課長	印藤 昭一
	兵庫県 まちづくり部 住宅政策課 住宅政策班 班長	山添 元邦
	三田市 地域創生部 部長	
事務局	三田市 まちの再生部 部長	
	三田市 都市政策課	

○ 令和5年度の取り組み

取り組みを進める推進体制



再生ビジョンに沿った取り組み（＝アクションプランVol.02）の実践

令和6年度から実施した取り組み

新モビリティ適正化部会

- 地域の交通課題解決に向けた多様なステークホルダーからなる組織の設立
- バスの乗り方教室の開催
- 新モビリティ乗車体験会の開催
- 新モビリティサービスの導入に向けた実証実験の実施

住まいの環境整備部会

- 中古住宅及び空き家の流通促進に係る事業の実施
- 空き家・持ち家に関する相談事業の啓発・周知活動の実施
- 住宅除却費支援制度の開始
- 公営賃貸住宅を利用した移住支援の促進

まちづくり自分事部会

- 住民に向けた再生ビジョンの説明会と意見交換会の開催
- 住民団体による都市施設の除草と花苗植えの実施
- 再生ビジョンの周知と理解を深め、まちづくりへの参画促進
- 多様な主体によるイベントへの参加

センター地区活性化部会

- 事業者、ひとはく、行政による再生に向けた取り組みを進める組織の設立
- フラワータウンまちびらき40周年記念イベントの開催
- センター地区の機能強化と都市施設の利活用を図るため社会実験実施
- フラワータウンの魅力向上のための施設再整備



新モビリティ適正化

31 July, 2026

第1回フラワータウン再生推進委員会

TABLE OF CONTENTS

- 01 新モビリティ適正化における取組
- 02 令和6年度から令和8年度 of 取組
- 03 むこぐるぐるの取組

基本方針1

誰もが快適なまちづくり

多世代が快適に安全に暮らし続けられるまちを目指す

公共交通の維持・利用促進のため、充実化を進めます

アクションプラン

P19

基本方針2

新たな魅力の創出

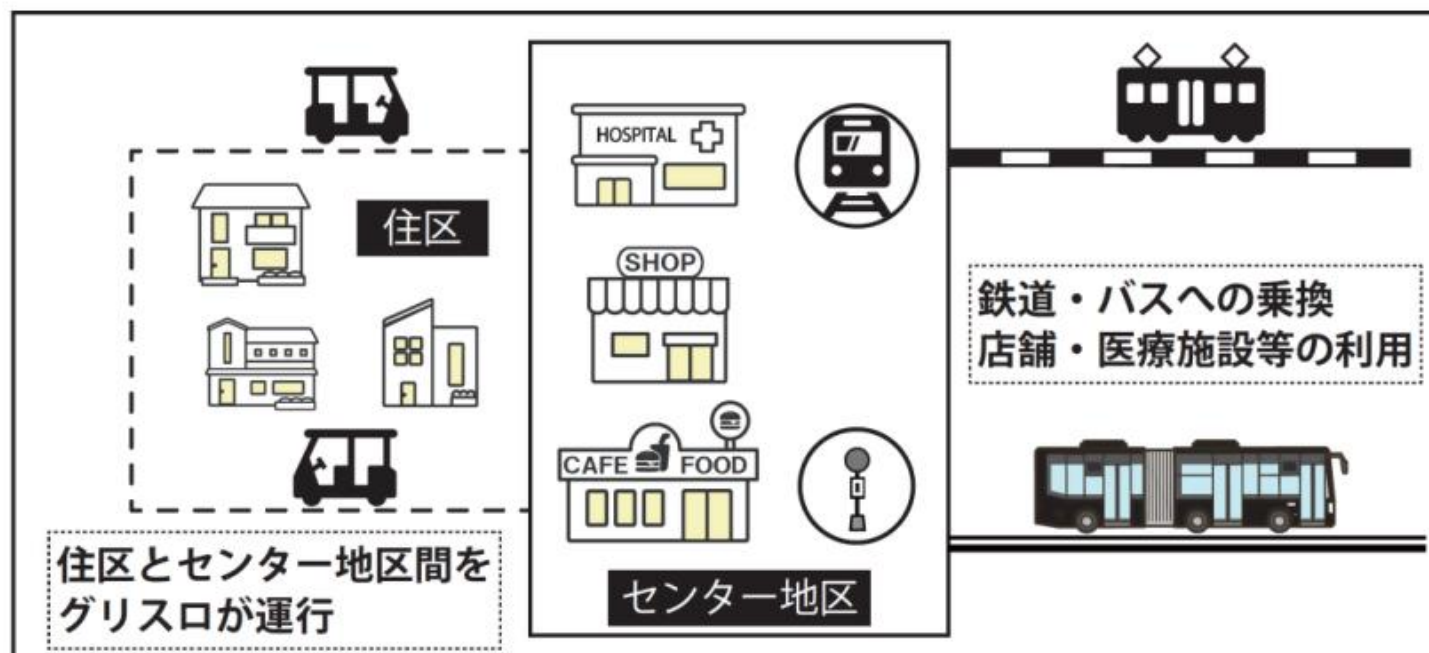
新たな魅力を持ち、若者・子育て世帯に選ばれるまちを目指す

地球環境への負荷を低減するまちづくりを進めます

■「まちのシーン」の実現に向けた取り組み

目 標

◆あらゆる世代が様々な利用目的に応じて選択できる
交通手段の確保と利用促進



アクションプラン

P25

■多様なステークホルダーによる交通課題解決に向けた取り組み

名称：三田市モビリティサービス推進協議会（令和4年度設立）

構成員：神戸電鉄、神姫バス、北摂コミュニティ開発センター、
武庫小校区まちづくり連絡協議会、三田市（事務局）

アクションプラン
P25,26

■既存の公共交通の利用促進のための意識醸成

フラワータウンフェスタ（令和6年度）：中止

フラワータウンフェスタ（令和7年度）：三田の公共交通って魅力がたくさん！

→連節バス・タクシー運転席体験、神戸電鉄駅舎見学、
公共交通パネル展示

■新しいモビリティに触れる機会の創出と理解の浸透

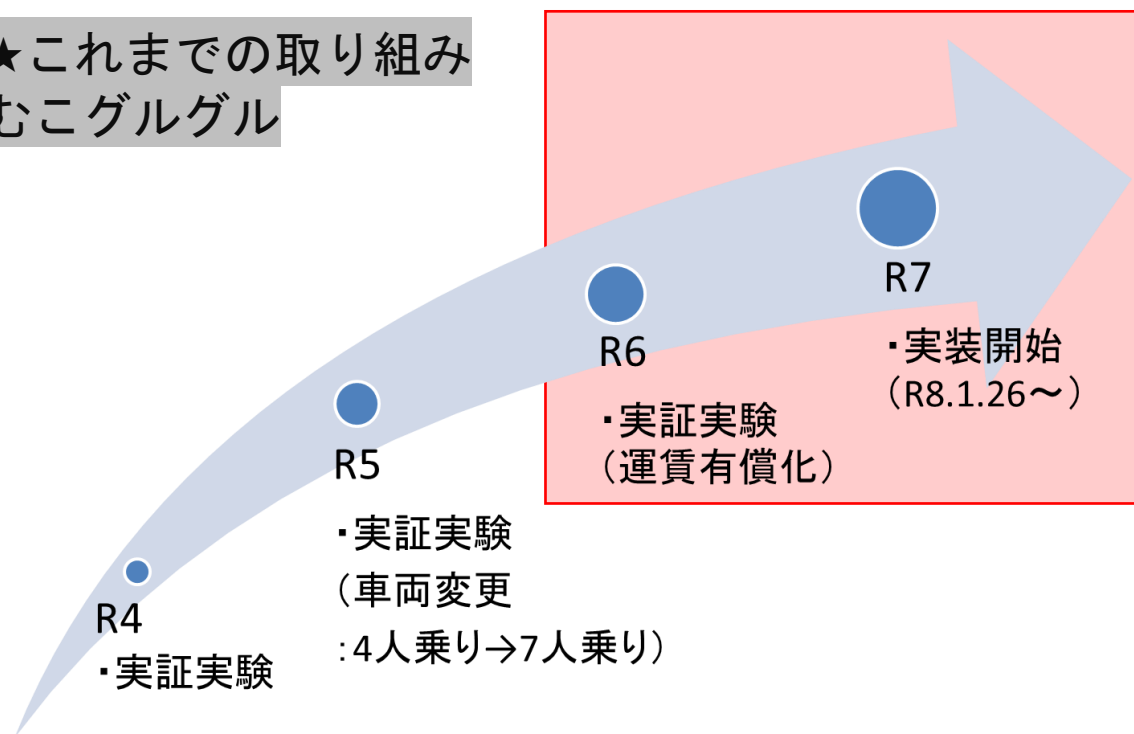
令和6年度：むこぐるぐる実証実験、PUBツチ（車両乗車等）

令和7年度：むこぐるぐる実装開始（1月～）、子ども向け無料市（車両展示）、防災訓練（車両展示）

令和8年度：無料体験デー（車両乗車体験:4月、6月のひらくマーケット）

■実証実験を踏まえた新モビリティサービスの
実装・展開の検討

★これまでの取り組み
むこぐるぐる



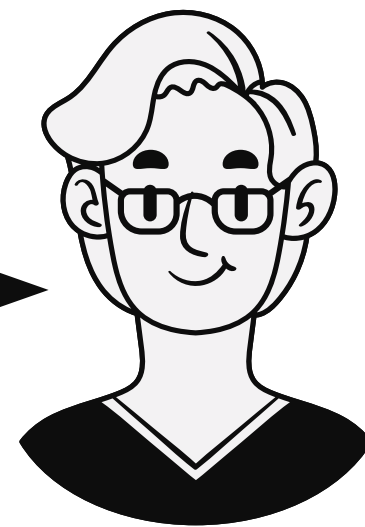
アクションプラン
P27

★事業背景

- ・フラワータウンはまちびらきから40年経過し、高齢化が進展しているニュータウン地域です。**高齢化の進展に伴い、移動範囲が小さくなることにより**（運転免許返納者の増加、住宅地から高低差のあるバス停の利用困難、徒歩や自転車等での移動困難等）、**利便施設が集約されているセンター地区までの移動が困難な状況**となっています。
- ・地域住民の外出頻度の低下及びまちの移動総量の減少は「**まちの活力低下**」につながる懸念されています。

★目的

- ・フラワータウン地区の中でも特に高齢化が進んでいる武庫が丘地区において**グリーンスローモビリティ**を活用した自家用有償旅客運送を行い、**センター地区への移動手段を確保することで、交通手段の確保及びまちの活性化を図ります。**



運行開始 R8.1.26～

運行手法 自家用有償旅客運送

運行便数 6便／日、定時定路線、1周40分

運行曜日 月・水・金(平日のみ)

運行時間 9時～14時(毎時00分発)

**ドライ
バー**

地域ボランティア約15名

車両

ヤマハAR-07(7人乗り)



ルート



今日はスーパー
に行こう。

電車・バスに乗っ
てお出かけして
みよう。

コミセンの
サロンに行こう。

会話をしたい
から1周乗ってみ
よう。

ゆりかごの代わり
に乗ってみよう。

帰りは疲れてる
から乗ってみよう。

運賃

<回数券>	5回乗車券	:	5回乗車可能の回数券	¥ 1,000
<乗り放題券>	1カ月利用券	:	1カ月間乗り放題のパス	¥ 1,000
	3カ月利用券	:	3カ月間乗り放題のパス	¥ 3,000
	12か月間乗り放題のパス	:		¥12,000
	1年利用券			

販売場所

①スーパーマーケット
NISHIYAMA
サービスカウンター



②フラワータウン駅構内
企画乗車券自動販売機



③電子チケット



④武庫が丘コミュニティセンター



■成果（R6年度実証実験）

- 延べ乗車人数は716人、1便当たり利用者数は平均3人が利用。
- 利用者層は、70歳代以上が68%を占め、買い物目的の利用が約80%と多かった。

⇒有償化したにも関わらず、**平均3人**（乗車定員6名）が**利用**された。

■気づき

- **移動に困っている方がリピーターになり、サービスに感謝される**ことがあった。

【移動に困っていた事例】

- これまでは車に同乗していたけど、夫が入院して移動に困っていた
- 高齢になり、買い物の荷物を持って歩くことができなくなった

【感謝された事例】

- 買い物は週に1回で必需品しか買えなかったけど、むこぐるぐるに乗れば季節の食べ物を買うことができる。
- むこぐるぐるがあることにより、乗車してどこかに出かける機会を設けるようにしている。
- 車両が解放的であることや地域の方がドライバーを担っているため、**車内で活発なコミュニケーションが発生**しやすい。

あなたとあなたの大切な人に
いちばん心地いい暮らしを、三田で。

私の暮らしがかなうまち

住まいの環境整備

三田市 移住定住促進課

TEL 079-555-6776

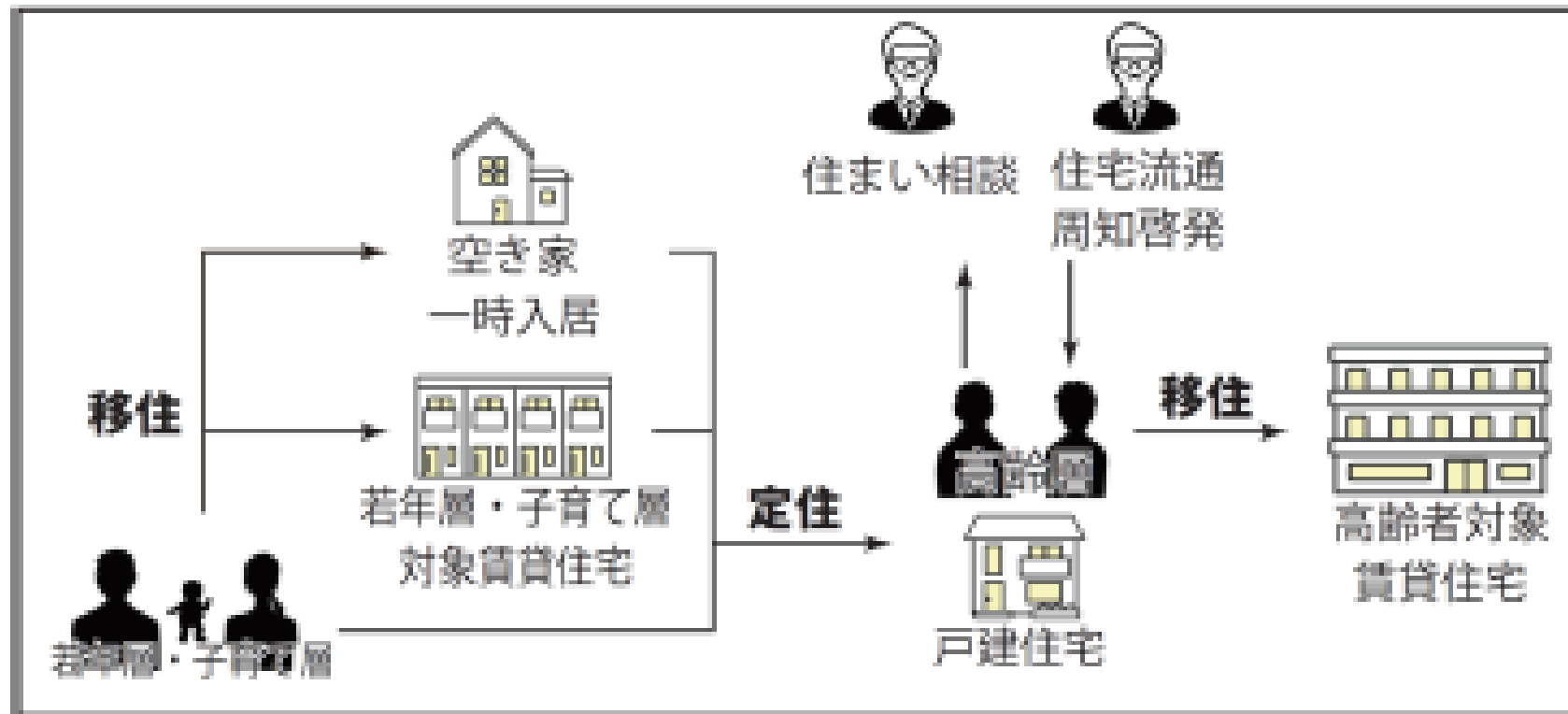
メール ijyu@city.sanda.lg.jp

令和6年度から令和8年度の取り組み

■「まちのシーン」の実現に向けた取り組み

目標

◆ 若年層・子育て層が移住・定住しやすい環境と仕組みづくり



中古住宅及び空き家の流通促進に係る事業の実施

NP0空き家相談センターと連携した事業

空き家流通会議

毎月1回開催

住まいの相談会

毎月1回開催

良質な住宅ストックが世代を超えてつながることで、オールドタウン化を抑制する。
空き家・中古住宅(住宅ストック)の活用の推進を図る。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	1	2	3	1	3	2	4	4	1	0	3	1	25
R7	1	1	4	1	0	2	0	0	1	2	1	2	15

うち、フラワータウンの物件

R 6 2件 (相続、売却)

R 7 2件 (相続、売却)

令和8年度

毎月実施中!

住まいの相談会

連携先：特定非営利活動法人空き家相談センター

相談無料 毎月 **第3水曜日**

🏠 13:00～15:00 要予約制 🏠 三田市役所 (本庁舎)

相続 売却 利活用 住み替え 遺品・生前整理

相続や売却、利活用など
お家についての困りごとはありませんか？
市と連携を結んでいる「**空き家相談センター**」の
専門家をご相談に乘ります！

中古住宅及び空き家の流通促進に係る事業の実施

NP0空き家相談センターと連携した事業

住まいのセミナー

市主催で年間3回程度

	回数	人数	個別相談	開催地区
R6	3	40	7	三田・フラワータウン・藍
R7	3	30	3	小野・三輪・藍

出張住まいのセミナー

地域から依頼を受けて実施

	回数	人数	個別相談	開催地区
R6	3	35	0	フラワータウン（2）・母子
R7	2	30	0	松が丘・母子



空き家・持ち家に関する相談業務の啓発・周知活動

住まいに関するアンケートの実施

◆期 間 R7年度中(主に6～7月)

◆対象者 生涯学習カレッジ受講生、セミナー受講者

◆回答数 275件

年齢	件数	%
～39歳	0	
40代	1	0.4
50代	13	4.7
60代	114	41.5
70代	127	46.2
80歳以上	16	5.8
無回答	4	1.5
合計	275	

お住まいの地域	件数	%
三田	43	15.6
三輪	24	8.7
広野	1	0.4
小野・母子	29	10.5
高平	7	2.5
藍・相野	10	3.6
つつじヶ丘	16	5.8
ウッディタウン	80	29.1
フラワータウン	55	20.0
カルチャータウン	7	2.5
無回答	3	1.1
合計	275	

シニア向け住まいに関するアンケート

◆質問項目

- ① 年代
- ② 居住地
- ③ 居住意向
(現在の居住地に住みたいか)
- ④ その地域に住んでいる理由
(選択式/複数回答)
- ⑤ 住み続けることへの不安、原因
(選択式/複数回答)

総数	回答項目	件数	%
	住み続けたい	157	57.1
	住み続けたいが、 住み続けることに不安がある	78	28.4
	住み替えたい	11	4.0
	住み替えたいが、 住み替えることに不安がある	11	4.0
	わからない	12	4.4
	無回答	6	2.2
	総計	275	

集計結果【ベスト3】 ③意向×①年代 / ③意向×②居住地

60代

60代（114件）		件数	%
1	住み続けたい	61	53.5
2	住み続けたいが 住み続けることに不安がある	38	33.3
3	わからない	7	0.6

ウッディ
タウン

ウッディタウン（80件）		件数	%
1	住み続けたい	58	72.5
2	住み続けたいが 住み続けることに不安がある	14	17.5
3	住み替えたいが 住み替えることに不安がある	3	0.4

70代

70代（127件）		件数	%
1	住み続けたい	79	62.2
2	住み続けたいが 住み続けることに不安がある	35	27.6
3	住み替えたいが 住み替えることに不安がある	5	0.4

フラワー
タウン

フラワータウン（55件）		件数	%
1	住み続けたい	30	54.5
2	住み続けたいが 住み続けることに不安がある	17	30.9
3	住み替えたい	3	0.5
	住み替えたいが 住み替えることに不安がある	3	0.5

集計結果【ベスト3】 ⑤不安×①年代 / ⑤不安×②居住地

60代

60代（245件）		件数	%
1	運転免許証返納後の生活への不安	58	23.6
2	買い物など日常生活に不便	40	16.3
3	公共交通機関の利便性が悪い	31	12.7
	医療・福祉機関の利便性が悪い	31	12.7

70代

70代（244件）		件数	%
1	運転免許証返納後の生活への不安	49	20.0
2	医療・福祉機関の利便性が悪い	33	13.5
3	買い物など日常生活に不便	32	13.1

ウッディタウン

ウッディタウン（122件）		件数	%
1	運転免許証返納後の生活への不安	25	20.5
2	不安はない	18	14.8
3	医療・福祉機関の利便性が悪い	14	11.5

フラワータウン

フラワータウン（105件）		件数	%
1	運転免許証返納後の生活への不安	24	22.9
2	買い物など日常生活に不便	15	14.3
	医療・福祉機関の利便性が悪い	15	14.3

若年層・子育て層の転入促進

三田市 令和8年度 住み替え支援補助制度事業
住みかえ〜ル補助制度
 三田市内で新築・中古住宅を購入し、住み替えをする市内・市外の若年世帯等に、費用の一部を補助します！

⚠ 制度が変わります！
 令和8年4月1日以降に住民票を移された方は
 必要書類についてフォームから入力をお願いします➡
 転入・転居日から3カ月以内に書類すべてをそろえて提出してください
 期限を過ぎた場合、申請は受付できません
 ※3カ月以内とは➡転入（転居）日より3か月後の月末まで
 （例 5月15日転入➡8月31日まで）

！令和7年度中に住民票を移された方は令和8年6月末まで申請できます
 （令和8年3月31日まで） 必要書類についてはHPをご確認ください➡

補助額 >>> 最大 60 万円！

上限基礎額 **10 万円**
 建築工事請負契約 建物売買契約にかかる経費 × 1/10
 ※土地代金はのぞく ※購入金額が100万円を超える場合は10万円補助となります

+ 条件に応じて加算！

NEW リフォーム **+ 10 万円**
 住宅の機能の維持、向上のための修繕・増築・改装・設備更新の改修など
 ※浴室またはトイレの工事、間・フェンス・柱などの外構に関するもの、
 家電の購入・設置費は対象外
 ※20万円以上の工事費発生
 ※工務店は、所在地が市内の業者に限定

市外から転入 **+ 10 万円**
 市街化調整区域 **+ 10 万円**
 市内企業に勤務 **+ 20 万円** ※市内企業に就労し、市内で勤務していること

**市外から三田市に転入された方に
三田の農産物をプレゼント！**
 詳細は裏面へ

住み替え支援補助金

市内で新築・中古住宅を購入した子育て世帯等に費用の一部を補助

- ① 若年世帯 ② 子育て世帯 ③ 若年単身世帯

対象



加算

- ① 市外からの転入 **10 万円**
 ② 市街化調整区域 **10 万円**
 ③ 市内企業に勤務 **20 万円**
NEW ④ リフォーム **10 万円**

住み替え支援補助の実績

	件数 (基礎額10万円)	市外から転入 (10万円加算)	市街化調整区域 (10万円加算)	市内企業在勤 (20万円加算)
R5	37	15	2	—
R6	90	44	2	—
R7	141	70	9	65

転入地区別

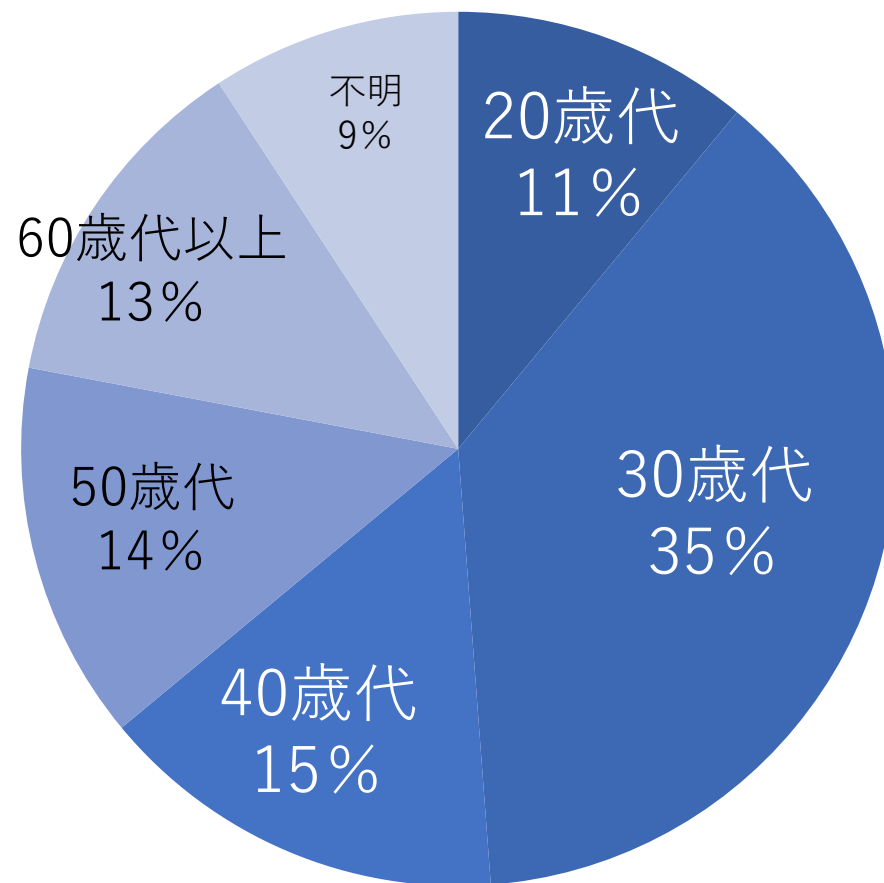
	ウッディ タウン	フラワー タウン	カルチャー タウン	つつじが丘	藍・相 野	三田	三輪	広野	高平	合計
R5	19 (51.4%)	5 (13.5%)	2	1	0	2	5	1	2	37
R6	31 (34.4%)	27 (30.0%)	4	5	2	9	10	2	0	90
R7	75 (53.2%)	20 (14.2%)	5	2	1	16	16	4	2	141

【参考】移住相談件数と移住者実績

年度	相談件数(件)	移住組数 (世帯)	移住者数(人)
R4	155	26	63
R5	220	103	163
R6	270	105	260
R7	372	121	294

前年比
138%増！

相談者の年齢（R7）



SANDA

まちづくり自分事

令和8年7月31日

第1回フラワータウン再生推進委員会

令和6年度から令和8年度の取り組み

■「まちづくり自分事」に関する基本方針と取り組み

(アクションプランVol.2 P41)

「まちづくり自分事」は、再生ビジョンの基本方針4(P.47)「再生推進の仕組みづくり」に則したものです。この方針に基づき、様々なステークホルダーがまちづくりに関わりを持ち、参画できるよう、その具体的な取り組みとして、再生ビジョンの取り組み⑪(P.73)、取り組み⑫(P.74)が挙げられます。

※ページ数は再生ビジョン 本編のページを示す。

フラワータウン再生ビジョン

基本方針 4 再生推進の仕組みづくり

フラワータウンの再生を**推進するための仕組みの構築**を目指す

⑪

取り組み

まちに関わるあらゆる人たちによる、主体的なまちづくりを促進する

⑫

取り組み

フラワータウンの魅力やライフスタイルを内外に情報発信する

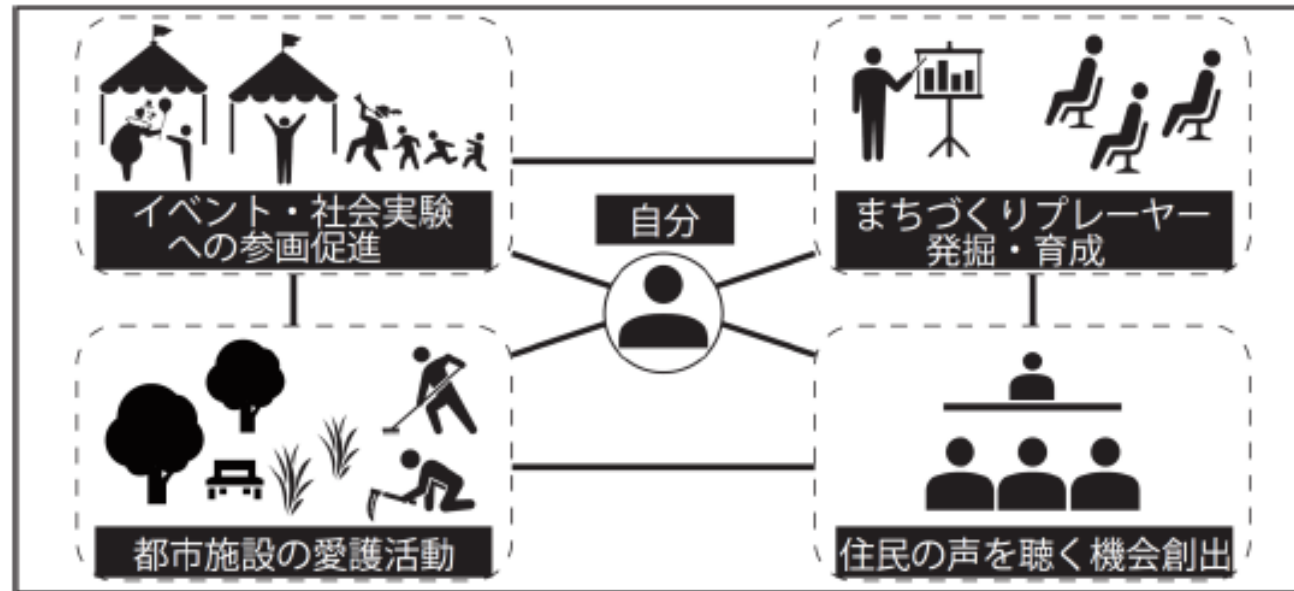
令和6年度から令和8年度の取り組み

■「まちのシーン」の実現に向けた取り組み (アクションプランVol.2 P47)

■「まちのシーン」の実現に向けた取り組み

目 標

◆自分の「やってみたい」ができるフラワータウンの実現



令和6年度から令和8年度の取り組み

■住民の意見を聴き、取り組みに反映させる仕組みの検討

自分事部会を定期的に開催

令和6年度：3回開催 令和7年度：3回開催

◎住民主体の主な取り組み

- R6.7.28 「ちようちんのタベ&ルーラ夏祭り」 武庫小校区で自治会とまち協がコラボして夏祭り実現
- R6.8.18 「やってみたいスクール」 武庫小校区まち協と弥生が丘の住民が先生として参加
- R6.11.7 「防災ピクニック」 武庫小校区住民が高田先生の指導のもと、少人数のママと子ども達で実施
湯を入れるだけの簡単防災食クッキングなどを体験
- R7年度 「移動手段に関するアンケート」 富士小校区で住民の移動手段ニーズを把握するために実施
今後、移動手段（車両選定も含め）の検討を進める
- R7年度 「武庫オプチャ」 LINEオープンチャットを情報共有ツールとして導入

令和6年度から令和8年度の取り組み

■まちの活性化に繋がるイベント・社会実験への住民参画の促進

フラワータウンフェスタ2024：雨天中止

フラワータウンフェスタ2025：各地区のまち協が特色を生かした地域PRブースを出店

（富士：フリマ、武庫：eスポーツ体験、狭間：縁日、弥生：射的）

◎「むこぐるぐる本格運行」に向けて地域の取り組み

令和6年度

- ・実証運行3年目（有償運行）
- ・本格運行に向けた検証

令和7年度

- ・本格運行開始に向けた検討
- ・地域展開の検討
- ・持続可能な運営体制の協議

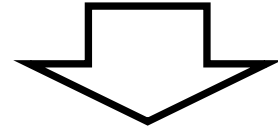
R8.1.26～実装開始



令和6年度から令和8年度の取り組み

■住民や事業者による都市施設等の愛護活動

継続した取り組み：弥生が丘で草が生い茂り通行さえ困難だった幅5mの小道を住民自ら整備
弥生小学校の法面の整備を「県の緑化事業」を活用し実施



以降も継続して環境美化に取り組み、地域に根差した活動となっている



令和6年度から令和8年度の取り組み

■新たにまちづくりに関与する住民＝「まちづくりプレーヤー」の発掘と育成

令和6年度 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘・育成支援事業

～「やってみたい」を起点とした持続可能な地域社会づくりの検証～

★事業背景

- ・ フラワータウンはまちびらきから40年以上が経過
- ・ 人口減少・少子高齢化により地域活力の低下が課題
- ・ 「三田市フラワータウン再生ビジョン」の推進には、新たなまちづくりの担い手が必要

★目的

- ・ 「やってみたい」を持つ住民を発掘・育成
- ・ ワークショップ等を通じて地域活動へつなげる
- ・ 将来的に自走できる仕組みを構築する

令和6年度から令和8年度の取り組み

■実施内容

● ワークショップ(全4回)

参加者が具体的なアイデアを形にし、地域資源を活用したイベントやアクションを創造できるように、自身のワクワクの言語化から始め、段階を踏みながらプランの具体化を図る。

● エキマエアキチ活用検討会議(計2回)

11月オープンの「エキマエアキチ」を舞台に、持続可能な活用アイデアを検討。チームコンセプトをまとめ、社会実験に向けた推進体制を早期に構築。

● 社会実験マルシェ(12/1)

参加者15名が11店舗を自主出店。出店者自らが準備・集客を行い、約100名の来場者を記録。住民自身の手で「場を動かす」実践的な成果を得た。



令和6年度から令和8年度の取り組み

■課題

1. 人材:住民の“やってみたい”に対し、個別最適に寄り添う「地域伴走者」の絶対数不足
2. 空間:公共施設や公園等、柔軟な社会実験を受け止める「フィールド側のルール整備」
3. 体制:次年度以降、外部委託に頼らず運営を継続するための「リソース確保」
4. 認知:点から面への展開に向けた、フラワータウン全体への「地域理解の深化」

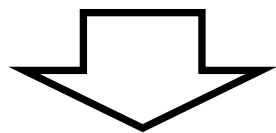
今後は、日常的な相談・伴走体制の仕組み化、育成されたプレイヤーを次期の運営へ組み込む方法、市内他事業との連携を検討していくことが必要と考えられる。

令和6年度から令和8年度の取り組み

■その後の展開

令和6年度の成果として、プログラムへ参加し、育成された新たなまちづくりの担い手とその協力者とともに、フラワータウンで自ら活動していく素地が形成された。

一方では、新たなまちづくりの担い手が継続的にまちづくりに関わるための伴走型支援にかかるマンパワーやノウハウ、事業者等との資金面も含めた連携体制が追いついていない現状も浮き彫りとなった。



こうした状況を踏まえ、これまでに発掘したまちづくりの担い手の育成にかかる体制整備及び協力者との連携を深めることが今後の検討課題であることがわかった。



センター地区活性化部会

取組概要

センター地区活性化部会における取組

基本方針 2 —— 新たな魅力の創出 ——

新たな魅力を持ち、若者・子育て世帯に**選ばれるまち**を目指す

センター地区や深田公園での社会実験を通じて、魅力あるまちの実現に向け、地域に求められる機能の検証を行ってきました

令和6年度から令和8年度の取り組み

■ 「まちのシーン」の実現に向けた取り組み

◇ 目 標

若年層・子育て層の誘引に繋がる新たな魅力づくり

基本方針 3 —— 交流し、地域力の向上 ——

まちに関わる人をつなげ、輪を広げ、**地域力の向上**を目指す

地域・企業・行政が連携し、地域内外の交流機会を創出してきました

主な取り組み ——

- ・ エキマエアキチでの社会実験（各種イベントや機能補填の社会実験など）
- ・ 深田公園を活用した社会実験（ドッグラン、マルシェなど）
- ・ フラワータウンセンター地区活性化推進実行委員会
- ・ フラワータウンフェスタ など

■事業者、ひとはく、行政による組織の再生に向けた取り組み

■センター地区でのイベントの開催

主な取り組み

□フラワータウンセンター地区活性化推進実行委員会

- ・センター地区でのイベント・社会実験等の企画・調整・準備
- ・センター地区の魅力の発信

□フラワータウンフェスタの開催

- ・毎年11月に企画（令和6年度は雨天中止）

➡令和7年度は約6,000人が来場し、30を超える企業・団体・地域が参画しました。

センター地区の魅力を地域内外へ発信し、地域への関心を高めることで、将来的な移住・定住を考えるきっかけづくりを図りました。

また、多様な参画者との連携を通じて、持続可能な魅力づくりのあり方を模索する機会となりました。



■フラワータウンの商業施設等における空き区画の活用促進

主な取り組み

□サンフラワー 1 階空き区画の整備

- ・ コストコ再販店
- ・ フードコート の整備

➡ フローラ88閉店による商業機能・滞留機能の補填

□オールドニュータウン商業施設等空き区画活用支援事業

- ・ 令和6年度～令和8年度活用実績なし（令和5年度1件）



■センター地区内の都市施設を活用した社会実験

主な取り組み

□はなみづき橋・のじぎく橋を活用した社会実験

- ・ ひらくマーケットでの「賑わいづくりの場となり得るのか」の社会実験



□深田公園を活用した社会実験

- ・ 令和7年度から計4回実施
子ども向けイベント/円形劇場マルシェ/アーバンスポーツ等/ドッグラン



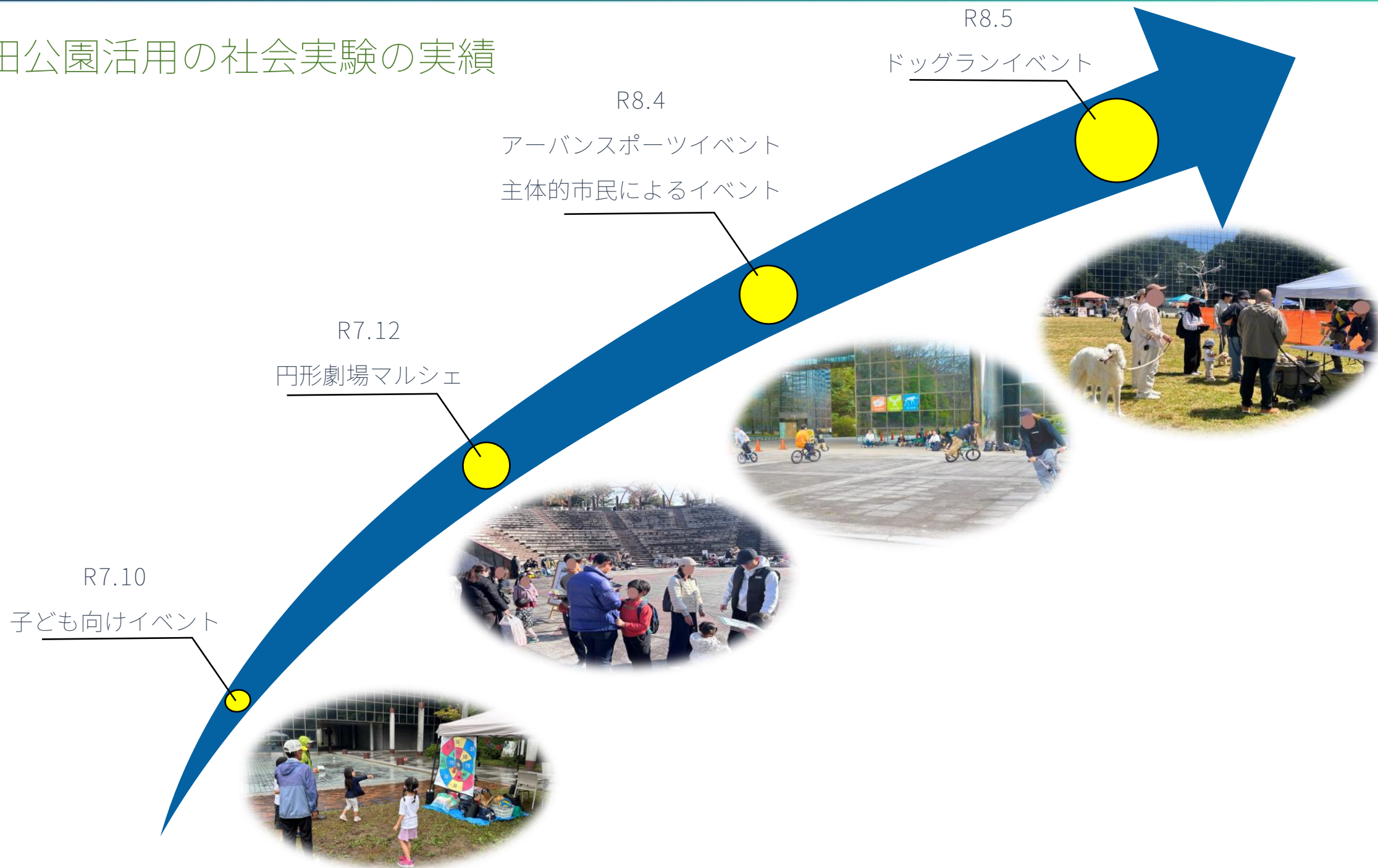
深田公園活用の社会実験

深田公園社会実験の狙い

- ・ 住民の期待が高い深田公園の有効活用
- ・ 周辺地域からの来訪のきっかけづくり
- ・ フラワータウンの暮らしを体験する場づくり
- ・ 関係人口・定住促進につながる可能性を検証



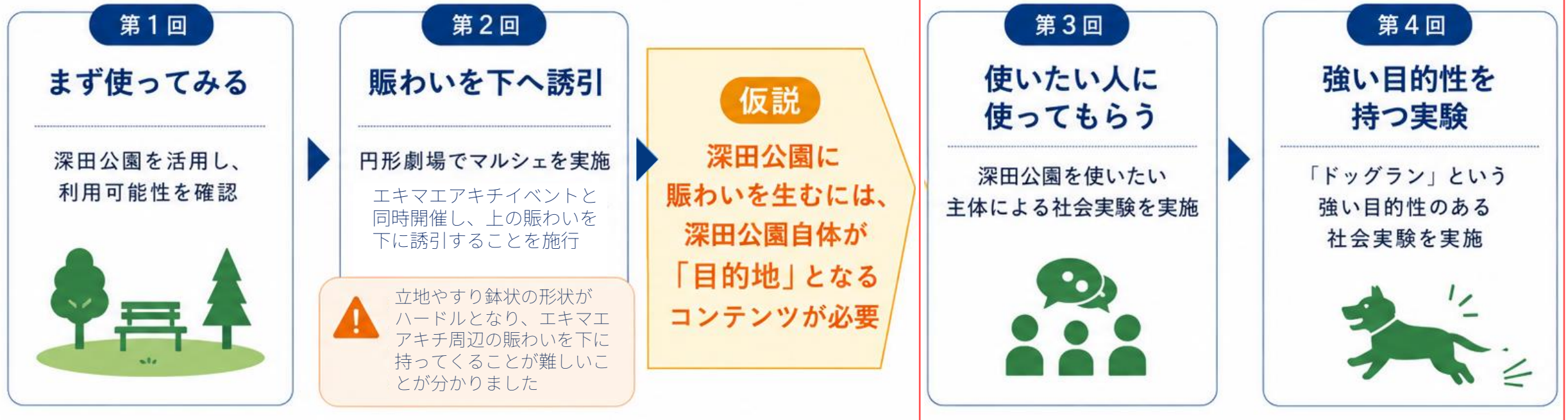
深田公園活用の社会実験の実績



深田公園活用の社会実験の成果

4回の社会実験を通じて、深田公園の活用したフラワータウン再生の手法を検証しました。

一定の賑わいを作ることに成功



深田公園は、駅前の賑わいをそのまま誘引するよりも、「行ってみたい」と思えるコンテンツにより
目的化することにより、活用可能性が高まることが分かりました。

フラワータウン駅前 社会実験について

～持続可能なセンター地区の賑わい創出に向けた検証～

令和8年7月31日
三田市都市デザイン課

1 社会実験の背景と課題

人口減少・少子高齢化

地区全体の活力低下に伴い、センター地区における賑わいが減少傾向にある

滞留・交流場所の不足

センター地区において、住民が気軽に立ち寄り、長時間滞在できるパブリックスペースが少ない

回遊性の課題

各施設が区画や道路で分断されており、徒歩による施設間移動や連続的なアクティビティが発生しにくい

活動・交流拠点の不足

子どもからシニアまで、多世代が日常的に活動・交流できる拠点が不足している

目指すセンター地区の姿

「人が集まり、人が活動し、

その活動が次の活動を生み出す持続可能なエリア」

オープンな居場所



誰もが立ち寄れる
自由な空間の創出



交流・滞留



活動の可視化と
新たなコミュニティ



施設間の回遊



歩きたくなる
ネットワークの形成



新たな賑い



持続可能な
エリア価値の向上

2 社会実験の実施体制

A ハード・インフラ提供

企業庁

社会実験フィールドとしての土地提供

三田市

社会実験に対する各種補助、支援

(株)北摂コミュニティ開発センター

社会実験施設（エキマエアキチ）整備・管理・運営

B プログラム運営

各市民団体・事業者等

主要プログラム（探求学習、不登校支援、相談拠点等）
の実施

人と自然の博物館

専門的知見に基づくプログラム実施支援・連携

(株)北摂コミュニティ開発センター

イベント企画の伴走支援、コーディネート、全体マネジメント

施設整備内容（エキマエアキチの概要）

整備概要

施設名称：エキマエアキチ

所在地：三田市弥生が丘1丁目8番

面積：約4,000m²

利用期間：R6.11.3～R8.9.30

整備内容：センター施設「エキマエベース」124m²
スポーツ広場「スポーツパーク」605m²
芝生広場「ハラッパーク」605m²
時間貸駐車場 2,700m²

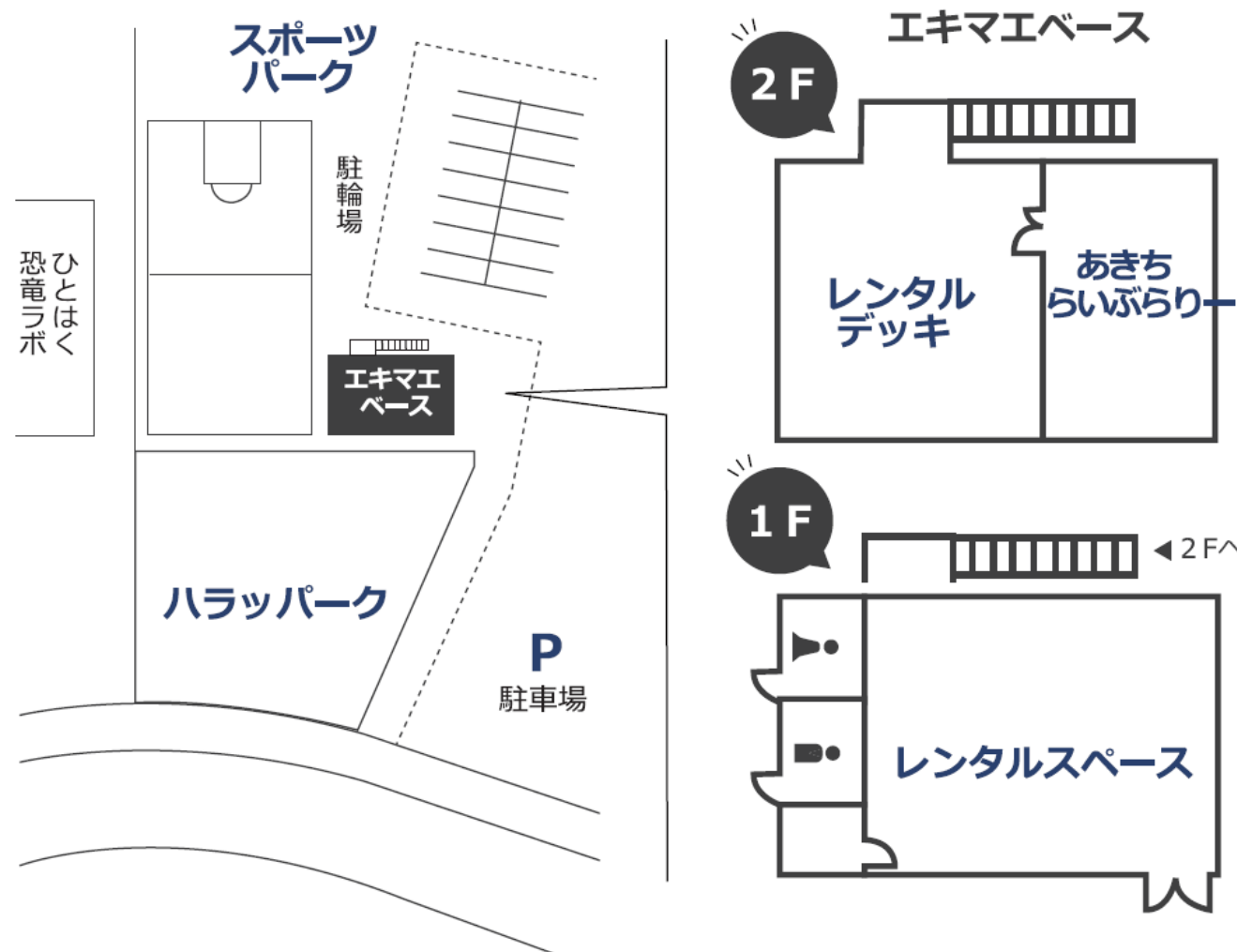
ロゴデザイン



位置図



施設配置図



施設整備内容（エキマエアキチの主要機能）



ハラッパーク

誰でも自由に使えるオープン空間



スポーツパーク

3x3やBMX等の若者向けスポーツ
拠点



エキマエベース

多世代交流・プログラム実施の拠
点

3 検証した「4つの仮説」

仮説 01

オープンスペースの整備

オープンスペースを整備することで、意図的な仕掛けがなくても人が自然に滞留し、日常的な賑わいが生まれるか。

仮説 03

まちづくりへの参加促進

オープンスペース利用の規制緩和や施設使用料の減免等によりまちづくりへの参画が促進されるか。

仮説 02

特定機能の誘引力

各種プログラムやバスケットコートなどの特定の機能が、センター地区へ来訪する「動機」になり得るか。

仮説 04

周辺地域への回遊性

エキマエアキチでの滞留や交流の発生は、深田公園をはじめとする周辺施設への回遊行動につながるか。

実施プログラム



DigDig

面白い大人から学ぶ「探究学習」
放課後の新しい居場所

月曜日・水曜日



ひまわりの森

学習支援・不登校支援
地域のセーフティネット

金曜日



みかづき

無料の学習支援
子どもの自立を地域で支える、
学びのサポート

水曜日



喫茶プシュケー

「喫茶を装った相談場所」
日常の悩みや課題を解消する
心の保健室
水曜日



あきちらいぶらりー

私設図書館
登録パートナーがWSや物販を
行う自己実現と交流の場
2階・月曜日～金曜日



イベント

新たな賑わい創出
賑わいや交流を生み出す
様々なイベントの企画・実施
不定期開催

4 プログラム実施状況

ヒアリング調査の抜粋



DigDig

- ・こども達にもっと経験や体験を与えていきたい
- ・放課後の子どもたちに「居場所」を提供できており、そこが「交流」の場になっている

□月利用平均 約60人（週2回開催）



ひまわりの森

- ・不登校のこどもだけでなく、その親にも居場所を作れた
- ・子どもたちにとって行きやすい場所であり、保護者にとって利用しやすい環境を用意できたら良い

□月利用平均 約25人（週1回開催）



みかづき

- ・定期的を開催することで、こどもたちに居場所を提供できた
- ・エキマエアキチは芝生やバスケットコートがあり、こどもたちが色々な目的をもって訪れている。そのため、多様な属性の子が集まる場所になっていると感じる。

□月利用平均 約25人（週1回開催）



喫茶プシューケー

- ・プシューケーをきっかけに、交流の場が広がっている
- ・口コミで広がり多くの人と繋がることができている
- ・プシューケー（相談場所）の存在を広げていきたい

□月利用平均 約40人（週1回開催）



あきちらいぶらりー

- ・友達や、知り合いとの新しい出会いが増えた。
- ・交流の場として利用したいと思いパートナー登録を行った。
- ・あきちらいぶらりーを訪れる人に楽しんでもらいたい。

□プレイヤー登録者数 20人

イベント実施状況（令和6年11月～令和8年5月）

エキマエアキチでのイベント（抜粋）

令和6年11月	エキマエアキチ社会実験開始 わんにゃんフェスタ とっておきの音楽祭り
12月	クリスマスエキマエマーケット
令和7年 2月	ナイトミーティング 節分祭
3月	いきいき百歳体操開始（毎週水曜日） エキマエアキチへのキッチンカー誘致（R7.6まで）

クリスマスエキマエマーケット



ナイトミーティング



エキマエアキチキッチンカー誘致



令和7年 5月	アキチでナイト開始 ひらくマーケット開始 ナイトミーティング
6月	アキチで朝市（野菜販売）開始
7月	七夕まつり 地域食堂「食堂おはな」開始（毎月最終水曜日）
8月	夏祭り
10月	三田わんわんフェス
11月	フラワータウンフェスタ2025
令和8年 3月	自転車交流会

アキチでナイト



アキチで朝市



食堂おはな（市長視察）



令和8年 4月 WARMSTREET（アーバンスポーツイベント）

イベント来場者数実績

約47,000人※延べ人数

イベント実施回数

約200回

来場者数上位イベント

- ①フラワータウンフェスタ2025（R7.11.3） 約6,000人
- ②わんにゃんフェスタ（R6.11.17） 約3,000人
- ③とっておきの音楽祭/大人の学園祭（R7.11.30） 約2,500人

5 日常利用状況（令和6年11月～令和8年5月）

□スポーツパーク利用状況

延べ 約14,000人 平均平日利用者 20～30人



□ハラッパーク利用状況

平均平日利用者 30～40人



- ・ こどもから大人まで多様な属性が利用
- ・ 特に平日の夕方は、小学生・中学生・高校生の居場所として賑わいを見せました

エキマエアキチ利用者へのアンケート結果（主な意見）



若者・学生

回答者数：131人

- ・みんなで集まれて楽しい
- ・いろんな人と関わるところ
- ・バスケットを通して地域の人との関わりが増える
- ・気軽に友達と集まれるところ



子育て世代

回答者数：95人

- ・大人の目が届いている
- ・普段関わらない大人とも交流できる
- ・小学校高学年から高校にかけて一気に外での居場所が無くなる
- ・中学校の部活がなくなったときの居場所になっている



大人・シニア

回答者数：62人

- ・異世代交流により刺激ももらった
- ・勉強ができるお年寄りが若い子の勉強をみたり、遊び相手になるみたいな場所でも良い

6 エキマエアキチで確認された効果

子ども同士の自然な遊びの発生

- ・初めて知り合った子と友達になった
- ・違う中学の子と仲良くなることができた

※利用者アンケートより

小学生・中学生・高校生のサードプレイス化

- ・友達に会いにエキマエアキチに来ている
- ・放課後は学校にいられないので、エキマエアキチができてうれしい

※利用者アンケートより

利用者と運営者の自発的な交流

- ・運営者(COMS)を通じて色んな人とつながることができる
- ・運営者(COMS)がいるため利用している

※利用者アンケートより

市民団体・事業者の活動フィールドの拡大

- ・やってみたいと思っていたことを実現することができた
- ・イベントを主催することができた

※利用者アンケートにより

交流を通じた新たな活動の広がり

- ・人の滞留や交流が、飲食や販売などの事業活動につながった
- ・交流と事業活動が同じ空間で生まれる、公園とは異なる使われ方が見られた

※関係者ヒアリングより

イベント時以外の日常利用の定着

平日利用者数

- ・スポーツパーク：20～30人
- ・ハラッパーク：30～40人

※日常利用者観測より

周辺施設との回遊の発生

- ・周辺のコンビニやサンフラワーとの往来が多く見られた

※関係者ヒアリング・日常利用者観測より

7 社会実験から見えてきたこと

01 目的の明確な施設や活動が来訪を促進する

02 自由に利用できるオープンスペースが自然な滞留と交流を生む

03 自由度の高い空間や低廉な使用料等ハードルを下げることで、まちづくりへの参画を促進する。

04 活動の「見える化」が次の活動を呼ぶ循環を生む

05 滞留や交流の増加は回遊性向上につながる

06 持続可能な賑わいを生むには活動のコーディネートや伴走支援を担うエリアマネジメント組織が必要

■フラワータウンセンター地区

「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ 概要

～今日からはじまる一歩～

★目 的

フラワータウンがこれからもあらゆる世代が暮らし続けたいと思えるまちであるために、センター地区の理想的な将来の姿＝“未来予想図”を描くワークショップを開催します。

参加者同士の対話を通じて、現在まちにあるもの、これから必要なものを整理し、思い描く現実と将来像とのギャップを共有しながら、持続的なまちづくりに向けた方向を考えます。

令和8年度の取り組み(「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ)

■実施内容

名称:「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ(全4回)

対象者:地域住民・関係者全般

募集人数:40人(応募多数の場合、年代・居住地域等のバランスを考慮の上、抽選)

実施期間:令和8年4月～令和8年7月

形式:オープン参加(公募)型、学識者によるファシリテート

主催:三田市都市デザイン課

企画・運営協力:福本優氏、高田知紀氏(人と自然の博物館研究員)

関西学院大学建築学部 国際都市計画・デザイン研究室

株式会社北摂コミュニティ開発センター

令和8年度の取り組み(「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ)

■ワークショップの全体構成（全4回）

第1回(4/29)「フラワータウンの今を知り、思いを出し合おう」

- ・ まちの現状や将来の見通しを共有し、参加者それぞれの思いを出し合います

第2回(5/24)「意見を整理し、現実とのギャップを考えよう」

- ・ 出された意見を整理・深掘りし、データや事例も踏まえて現実とのギャップを考えます

第3回(6/28)「大切にしたい価値を実現するアイデアを考えよう」

- ・ これから大切にしたい価値や方向性をまとめ、実現に向けたアイデアを検討します

第4回(7/25)「未来予想図のたたき台をつくろう」

- ・ 議論の成果を地図に落とし込み、未来予想図のたたき台を作成します



令和8年度の取り組み(「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ)

■ワークショップ内容の周知、住民意見募集

各ワークショップで出た意見や実施内容を再生レポートとして地域へ広く共有し、フラワータウン再生に対する理解促進を図るとともに、追加意見を収集し、次回以降のワークショップへ反映を行っている。

発行	発行方法	発行時期
第1号	紙媒体でフラワータウン全戸配布＋HP掲載＋中心施設配架	6月上旬
第2号	HP掲載＋中心施設配架	6月中旬
第3号	HP掲載＋中心施設配架	7月中旬
第4号	紙媒体でフラワータウン全戸配布＋HP掲載＋中心施設配架	9月上旬

また第1回レポートはQRコードで追加意見募集、かつ第1回及び第2回の実施後に中心施設へ意見募集パネルを設置した。

※中心施設はエキマエアキチ、市民センター、サンフラワー、多世代交流館ふらっと 計4か所

令和8年度の取り組み(「10年後のまちの未来予想図」ワークショップ)

■第3回まで整理内容

第1回で出された意見をもとに、第2回でまちの将来像や活用すべき資源が整理されました。

第3回では、まちの将来像ごとに
実現したい具体的なまちのシーン
を考えました。

① 行きたくなる居場所づくり

- ・ こどもが多様な体験・交流できる場所があるまち
- ・ 中高生が放課後に過ごすことができるまち
- ・ 多世代交流できる場所があるまち・お年寄りに優しいまち
- ・ ペットを連れて滞在できるまち

② 「知りたい」が育つまち(学び・教育)

- ・ 関西学院大学の学生が、フラワータウンのこどもたちに勉強を教えているまち
- ・ こどもも大人も、人博(人と自然の博物館)に集まって学ぶまち
- ・ 自然と触れ合いながら学ぶまち
- ・ ボランティアが溢れてつながれるまち

③ 非日常的にぎわい

- ・ 多世代交流なまち
- ・ 子育て世代が帰ってくるまち
- ・ 人を呼び込むまち・音楽を楽しめるまち
- ・ 公共施設をイベントなどに利用できるまち

④ 交通・移動

- ・ こどもがひとりで自由に買い物・習い事に行けるまち
- ・ フラワータウンと他地区を気軽に行き来できるまち
- ・ 誰でも自由に買い物ができる場所を選べるまち

⑤ 若者の定着

- ・ 若者が住み続けられるまち
- ・ 若者が働き続けられるまち・通勤しやすいまち
- ・ 若者が帰ってきたくなるまち
- ・ こどもを育て続けたいまち

⑥ DIY的まち整備

- ・ みんなでつくる歩きやすい安全なまち
- ・ みんなでつくる「花」のまち
- ・ みんなでつくる自然が身近なまち

⑦ 身近で気軽な買い物環境

- ・ 日常の用事がまちの中で完結する生活
- ・ 買い物ついでにふらっと立ち寄れる居場所であふれるまち
- ・ 中心地域以外の居場所づくり